

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	－	－	－
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから、来客数が戻りつつある。ただし、まだまだ前年の水準には及んでいない。インバウンドや他地域から訪れる客が増えてこないため、厳しい状況は続いている。
	○	百貨店（営業販売担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス対策に伴う外出の自粛が6月19日に解除されたことで、客の動きが活発になってきている。特別定額給付金として10万円が支給されていること、キャッシュレス・消費者還元事業が6月で終了することも後押しとなっている。
	○	スーパー（店長）	お客様の様子	・外出の自粛により衣料品、日用品目的の来客が激減していたが、週末の来客数は新型コロナウイルスの感染拡大前と同じような水準まで回復してきている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス対策による緊急事態宣言の解除から徐々に良くなりつつある。今後についても期待している。
	○	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・自粛ムードが和らいでいるなか、特別定額給付金が支給されていることで、来客数や購買点数の増加がみられる。
	○	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・少しずつではあるが、販売量が回復傾向にある。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで営業を再開した。ただ、売上は前年比30%程度であり、水準としては低い。昼は客の動きが少しみられるものの、夜の動きが悪い。料理がおいしくないことはないと思えているが、客足が伸びてこない。客が飲食店を不安に思っているのか、昼の限られた時間での利用がしづらくて来店しないのか、理由がよく分からないため、対処方法も見付けられない。食材業者は平常の営業体制に戻りつつあるが、日によっては食材が足りなくなるなど、在庫管理が厳しくなっている。どうみん割の効果は、今のところ一時的かつ限定的な動きにとどまっており、2年前の北海道ふっこう割のような手応えが感じられない。一方、道内の各自治体などからは食に関する事業支援の相談が増えてきている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・どうみん割に関する問合せが急増している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスが収まりつつあることで、経済も少しずつ動き出している。ただし、観光貸切りバスは早くても9月までは本来の動きに戻ることはない。今後、第2波が訪れることになれば、事業そのものをリストラクチャする必要がある。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・5月に緊急事態宣言が解除されたことで、少しずつではあるが、人の動きが出てきている。ただし、例年並みの水準まで回復することは難しい。
	○	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・来客数が全道平均で前年の7割まで回復してきている。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組の観点から、これ以上の来客数回復は難しい状況にある。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除に伴い、これまで約2か月間来店を控えていた客が来店するようになっており、6月は3か月前と比較して来客数及び売上が増加している。	
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで、歩道を歩く人が僅かながらに増加している傾向がみられるが、昼間の飲食店や物販店、夜型飲食店の来客数は低調なままである。これは新型コロナウイルスに対する不安材料が多いこと、6月に入り区域内のカラオケ店が閉店したことなどから、若年層の来街者が依然として少ないためとみられる。	

<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の輸入の動きがいまだに回復してこない。客足も思っていたよりも戻っていない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（役員）	それ以外	・6月の来客数は減っているものの、客単価が上昇している。これは営業再開後の勢いが若干みられるためであり、このような状況が何か月も続く保証はない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で景気は悪化したままである。最悪の状況は脱しており、徐々に回復する傾向がみられているが、以前の状況と比較すると景気はまだまだ悪い。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・巣籠り消費が一段落している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	来客数の動き	・食品スーパーマーケットでは6月に入ってからチラシを再開している。商品情報が多くなったことで、来客数が増加しているが、客単価が低下する傾向もみられるなど、新型コロナウイルスの感染拡大前の状態に戻つつある。ただ、客単価が低下しているとはいえ、前年を上回る状況はまだ続いており、しばらくは4～5月と同様の特需が続く。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	販売量の動き	・6月19日に外出自粛などの制限が解除されたが、その少し前から、一般食品の購入量が一気に減ってきた。外食する人が増えてきたためとみられる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は減少したままである。新型コロナウイルスの影響が継続しており、特に朝や夜間の落ち込みが大きい。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	お客様の様子	・5月末から6月中旬にかけて、エアコンの売行きが好調である。前年を上回って推移しており、下見の客も増えてきている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスが引き続き大きな影響を及ぼしている。レンタカー需要の大きな落ち込みがみられるほか、積極的な営業活動ができないことなどで、販売量も落ち込みが大きい。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3～5月にかけて新型コロナウイルスの影響で販売量が相当落ち込んだが、低金利の施策などの活用をメーカーがうたっていることもあり、6月以降は若干回復している。ただし、水準自体はまだ低いままであり、劇的な回復とはなっていない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・良い意味で平常時の状態に戻つつある。検疫防疫商材を買い求める客も、以前のような買いあさる行為をしなくなってきている。マスクやウイルス対策商材はこのまま普通の安定商材になる。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・6月下旬に都道府県をまたぐ移動の制限が解除されたことで、徐々にではあるが、週末の観光客が目立つようになってきた。ただ、平日はまだ開店休業の状態が続いている。今のところ、ランチのみの営業となっているが、売上は前年比で88%の減少となっている。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・北海道の緊急事態宣言は解除されたものの、依然として客の警戒心が強く、旅行需要は戻ってきていない。6月も取扱が皆無のため、前月と同様に各社員に休業日を追加設定させている。このままの状態が続く場合、会社全体が危機的状況に陥る可能性もある。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、販売量などが最低となっている状況に変化はみられない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・2月28日の北海道知事による緊急事態宣言発出後、全く人の動きがなくなった。さらに、4月7日の国の緊急事態宣言後は一段と人出がなくなった。当地のタクシー1台当たりの売上は5月でマイナス55%であったが、休業などで稼働台数を減らしていたため、全体ではマイナス70%の売上であった。6月以降は少しずつ動きが出てきており、タクシー1台当たりの売上はマイナス40%程度まで回復するなど、5月と比べればマーケットの動きは若干良くなっている。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による減収は底を打った感がある。今後は回復のスピードに期待することになる。

▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、商材の評価に対してものすごく敏感に反応している。また、単価の安い商材を求める傾向もみられる。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・観光関係の動きが少しずつ戻りつつあるが、まだ完全に戻った状況ではない。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・店舗における来客数の動きや周辺における宿泊施設の動きから、景気はやや悪くなっている。
▲	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・集客が厳しい中、売上確保のために投売り以下のセールを実施している。売上が伸びたとしても、投売り商材しか売れていない過酷な日々となっており、購入者の目の厳しさが強く感じられる。
▲	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・特別定額給付金の支給がようやく始まったが、まだ客の購買意欲にはつながっていない。客からは生活資金や貯金に回すといった声も上がっている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による活動自粛が影響し、客足が伸びてこない。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・営業日数、営業時間を自主的に短縮し、感染拡大防止を考えた前月と比べれば、若干持ち直した感があるが、いまだに客自体が来店に慎重になっている傾向がみられる。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除に伴って少しずつ来客数が増えてきているが、通常の状態に戻るまで、まだまだ時間が掛かる。商店街では閉店したままの店や、やめてしまった店もあるため、以前のような状態に戻るのか、心配している。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、一向に回復の兆しがみられない。客の心理に怖いというイメージが定着しているためとみられる。日中の人出は徐々に戻ってきているが、夜の行動は若干の増加にとどまっており、全く商売にならないほどである。特に人が集まる繁華街を徹底的に嫌う傾向があり、回復のめどがいまだに立っていない。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・売上は前年比10.7%となり、景気は悪い。月末になり、昼カラで新型コロナウイルスの感染者が続けて出たこともマイナスである。
×	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・6月1日から飲食店などの休業要請が解除され、平常の状態に戻る第1歩との期待があったが、飲食店への客足はまだまだ戻っていない。下旬には当地で初のクラスターが発生したこともあり、回復がますます遠のいたとみられる。ただ、当社の売上は、前年比70%台まで回復しそうだ。
×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策による外出自粛などの制限が解除されたが、客の消費マインドは回復しておらず、来客数の減少が続いている。
×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価の上昇が継続しているものの、新型コロナウイルスの感染拡大以降、依然として来客数の減少が続いている。
×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス対策での外出自粛などの制限が解除されたことにより、前月からみると販売量の動きは良くなってきているが、3か月前との比較ではまだ6割ほどにしかっていない。
×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除されたが、まだ以前のような客足はみられない。
×	スナック（経営者）	来客数の動き	・6月1日から営業を再開しているが、来客数は2割程度にとどまっている。これからも営業は続けていくが、どのような対応を取れば良いのか、まだ分からない面も多い。
×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたものの、まだ多くの人の警戒心は高いままである。新しい生活様式が浸透していることや国のG o T oキャンペーン事業が始まっていないことから、客の動きはみられない。
×	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・6月末まで営業を休止している。7月以降についても、海外からの予約は皆無であり、国内客も募集型ツアー商品はゼロに等しい状況にある。

		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で欠航便が増加していることで、5月の空港利用者数は前年比7.7%と過去にない低水準となった。しかしながら、緊急事態宣言が解除されてから、航空機の利用者数は増加傾向に転じてきている。利用者が低迷する中で、地域医療を守る派遣医師の足となる航空便を欠航させない航空会社の姿勢に、地域からは感謝の声が上がっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響により、貸切りハイヤーや観光タクシーの注文、インパウンド客やイベント関係者の利用がほぼゼロとなるなど、状況は悪くなるばかりである。普通タクシーの利用も前年の約半分という状況にある。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、タクシー業界では売上が大きく落ちており、今現在も影響が続いている。当分の間は、このままの状態では推移するのではないかと懸念している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月の時点では、前年比15%程度の利用客があったが、6月は25日時点で約6%の利用客にとどまっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・景気は悪い。緊急事態宣言が再度出されると終わりである。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、輸送量、特に旅客については、数量、金額共に前年から大幅なマイナスとなっており、経営基盤に多大な影響を与えている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・住宅産業ではモデルハウスやショールームを訪れる客が大幅に減るなど、来客数が著しく減っている。客のムードも悪く、先行き不透明なことで大きい買物を控えるようになってきている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・今後、所得が減少する可能性が高いと話す客が多くみられる。分譲マンションの商談も以前と比べて減少している。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—	—
	○	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の解除後は客足が戻りつつある。4～5月はほぼ閉店状態が続き、受注が低迷したが、6月に入って若干上向いてきた。
	○	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・社会全体としては新型コロナウイルスの影響を強く感じるが、通信業界では、リモートやオンライン関係での需要増加が顕著になってきており、3か月前と比較すると、景況感は改善傾向にある。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除され、幅広い業種で経済活動が再開されたため、道内景気は外出自粛などが行われていた3か月前と比べればやや良くなっている。ただし、新しい生活様式への対応など、経済活動への制約が残っているため、持ち直しのペースは緩慢である。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス対策での緊急事態宣言が解除されたことで、建設現場が本格的に動き出している。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・関東地方の気温が高めに推移していることで、飲料関連の荷動きが戻ってきている。また、道内産の農産関連品も徐々に動き出し始めた。一方、紙パルプ、建材関連は動きが鈍い。一般雑貨の物流も、経済活動が依然として全体的に停滞しているため、動きが弱い。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前年比がほぼ横ばいで推移している。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・戸建て住宅の4月の着工件数が落ち込んだこともあり、景気はやや悪くなっている。今後の受注も前年より落ち込む可能性が高い。
	▲	建設業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスが経済に及ぼす影響が次第に明確になってきていることで、業種を限定することなく、建設投資の着手延期が目立ち始めている。今後の民間工事の総量に対する危惧も広まってきている。

	▲	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言解除後も新型コロナウイルスの影響で企業活動が停滞しており、民間企業の設備投資が慎重な姿勢に転じている。6月からの着工予定で仮受注していた分譲マンション建築案件が次年度以降に白紙見送りとなった例もみられる。
	▲	司法書士	取引先の様子	・建築関連業種や不動産仲介業の活動状況が思わしくないなか、新型コロナウイルスによる社会経済への影響が大きくなっていることで、関連業者の動向も落ち込んでいる。景気が悪化していることは確かである。
	▲	司法書士	取引先の様子	・例年と比較して、不動産の売買、建物の新增改築工事の受注が減少したまま推移している。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が大きく、当分、景気の回復は見込めない。不動産取引は、実行するまでに長い時間が掛かることが多いため、営業活動の中断状態が続いたことで、当分の間は低迷することになる。
	▲	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が徐々に出てきている。設備投資案件の多数がストップしている。
	▲	その他サービス業【建設機械リース】（支店長）	取引先の様子	・取引先の設備投資意欲がまだ回復してこない。ただし、緊急事態宣言解除後、仕事は動き出しているようである。
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、前年から約2～3割の売上ダウンとなっている。
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・6月の販売量は前年比プラス1%であったが、3か月前の3月の販売量は前年比プラス18%であったため、景気は悪くなっている。
	×	その他サービス業【ソフトウェア開発】（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響により東京への往來が自粛されたことで、新規案件が全く取れない状況にある。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は5月で底を打ったとみられる。若干ではあるが、飲食や小売では募集を開始している。人を採用しやすい市場になっていることで、介護や建設などの求人も堅調に推移している。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地は国内でも早い段階で新型コロナウイルスの感染がみられたが、その分、落ち着きも早かった。休業していた店舗もほぼ営業再開しており、影響の大きかった居酒屋では、天候、曜日によっては、新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで来客数が戻ったという声も聞く。ただ、残念ながら閉店に追い込まれた店舗もみられる。新型コロナウイルスの影響が余りなかった建設業界では、受動喫煙対策の影響で、特に設備工事の会社が多忙である。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・新型コロナウイルスへの警戒感が根強く、繁華街にある飲食店やアパレル、小売店、大型スーパー、百貨店などの客足が今一つ伸び悩んでいる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言が解除され、往來の制限も緩和されたことで、自粛ムードも徐々に緩んできているが、感染症のリスクが払拭されない限り、雰囲気も含めて状況は大きく変わらない。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が4月との比較で約3割減少している。欠員対応の求人は辛うじて確保できているが、ここ数か月の状況次第では差止めとなることも懸念される。派遣の依頼もイベント系は4月以降ゼロの状況が続き、販売・販売促進系も減少している。事務系も様子見の状況であり、業績が悪化すれば依頼の取下げが増えることになる。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月の有効求人倍率は1.02倍であり、前年を0.06ポイント下回っている。
	×	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・来所する企業の話の聞いていると、経営維持が難しいとか、一時的に手助けをしてもらえないかなどといった相談が増えている。3か月前よりはそうした傾向が強くなっている。

	×	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月の有効求人倍率は0.86倍であり、前年を0.19ポイント下回った。今年1月以降、有効求人倍率の低下幅が拡大していることから、景気は悪くなっている。</li> </ul>
	×	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来春の新卒採用について、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、説明会が従来型のface to faceからWeb形態のものに変更されているが、対応できていない企業が想像以上に多い。また、学生側もWebでの対応に慣れていないため、活動量の大幅な減少傾向がみられる。新型コロナウイルスに対する先行き不安から、採用予定数を決め切れていない企業もあり、しばらく混乱は続くことになる。</li> </ul>